

Q

人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください。

A

利用者ニーズを踏まえ、川の自然特性を活かすとともに、まちづくりの視点も加味した水辺整備の考え方、及び高水敷の地形処理を工夫した事例を紹介します。

Answerの概要と基本的考え方

水辺整備の内容は、対象とする場の特性や背後地のまちとの関係、利用者ニーズ等により異なってくる。

計画立案にあたっては、それらを把握した上で、住民・行政など水辺に関わる人々が、対象地の今後の様々な活用可能性を考え、最も重視すべきことは何かを共有・合意することが肝要である。

計画を立てる際に必要な視点及び検討の流れを下図に示す。

計画を立てる際に必要な視点

- まちづくりとの関係性(堤内地の土地利用)
- 主要な施設はどこにある?
- スケール
- 人の動線/活動
- 視点場/視対象
- 歴史・文化(過去から将来へ向けた時間軸の概念)
- 生態系・環境←変動、インパクト(冠水頻度、攪乱強度など)
- 治水要件
- 人と生き物と川の関係性
- 本来あるべき川の姿(人だけの理屈で考えないこと)
- 維持管理 ...など

具体的な検討の流れ

■場の特性の整理・掘り下げ

- ・対象地にある資源、課題を明らかにする → 夢を描く
イメージ・コンセプトなど:どんな場所にしたいのか?
望まれるアクティビティ:そこで人は何をしたい?

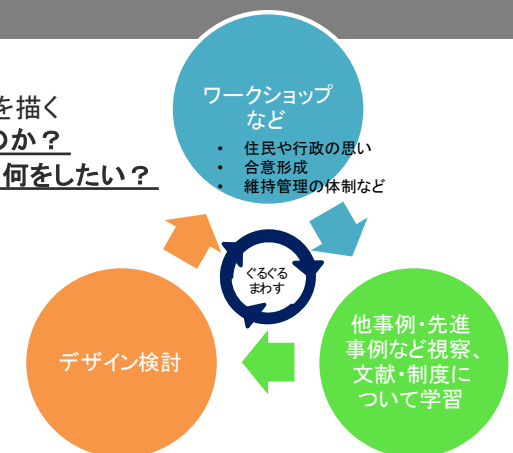
■必要な機能

■構造・形状

- 縦断、平面、横断
- 高水敷・土手の構造や勾配
- 樹木種類・配置
- 広場・階段等の構造物など

■ツール

- 模型、スケッチ、イメージパース等



水辺整備計画に必要な視点及び検討の流れ



人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください。

参考事例

河岸や高水敷の地形処理に工夫を凝らしたことで、水辺特有の心地良さを体感できる、利活用しやすい高水敷を形成した事例として、阿武隈川・渡利水辺の楽校（福島県福島市）、遠賀川・直方の水辺（福岡県直方市）及び子吉川・癒しの川（秋田県由利本荘市）を紹介している。

■ 遠賀川・直方の水辺

低水護岸ブロックを撤去、高水敷を緩傾斜のスロープとして、どこからでも川面が見え、市民が気軽に訪れることのできる水辺を創出

1) 背景及び計画・設計条件

直方市役所前を流れる遠賀川の水辺は、市の玄関口的な役割を果たしている。高水敷のオートキャンプ場は市外からの利用者も多く活用されていたが、コンクリート低水護岸が水際へのアクセスを阻み、水辺で遊びづらいこと等が課題であった。

2003年の豪雨災害を受けて災害復旧事業が行われることとなり、

- 河積の増大による治水安全度の向上
- イベント時だけでなく、常に川と親しみ交流できる場所に
の両立が目指された。



改修前の様子

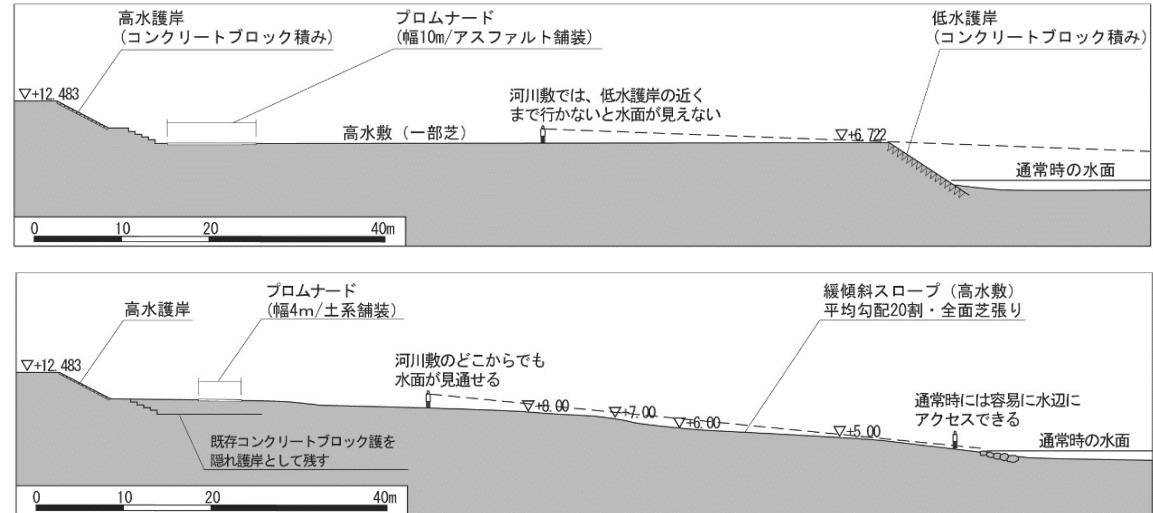


人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください。

参考事例

2) 整備方針

“市民が安全かつ自由に利用できる水辺”、“水を身近に感じられる水辺”の創出を整備方針として、低水護岸ブロックを撤去して、高水敷を緩傾斜スロープ化し、高水敷のどこからでも水面が見通せる、親水性の高い空間を創出した。



改修前後の横断形状（上：改修前、下：改修後）

3) 主な実施内容

a) 高水敷・水際の緩傾斜化による水面の見通しの向上

- 水裏で浸食の恐れが小さい左岸側は、既存のコンクリートブロック積低水護岸を撤去し、高水護岸中段からなだらかに水面までつながる緩傾斜の土羽スロープを基本の断面とした
- 平らだった河川敷を緩い下り斜面に改修することは河積の増大にもつながり、治水安全度が向上した



改修後の様子



人の利用という視点から、高水敷整備をどのように進めたらよいか、考え方や事例を教えてください。

参考事例

b)起伏の造成による様々な利用空間の形成

- 洪水時の川の流れを阻害しない、かつ川が自然に創出する姿に近いものを目指し、数カ所の丘を設けてうねるような地形のアンジュレーションを造成することにより、開放感のある伸びやかな空間を創出するとともに、視覚的な空間の分節化による奥行き感の創出を両立させた
- 分節化した空間のそれぞれには、子どもがサッカーをして遊べる3%未満の勾配から草スキーのできる25%程度の勾配まで様々な空間を埋め込んだ



粘土模型の活用
(市民との協働、デザイン案の確認等)

4) 整備後の効果

整備後に実施された調査では、来訪者の数が改修前の約1.5倍に増加、改修前と比較して緩傾斜スロープ化による空間の変化に起因するとみられる来訪者の動きが確認された（高水敷を広く利用する、水辺に近く、等高線に平行な動きや高木に向かう動きなど）。

草スキーやピクニック、川辺での釣りなど、以前は見られなかった様々なアクティビティが発生したり、市民による定期的な活動が行われるようになったりした。



利活用の様子（ボール遊び、草スキー、散策など）